



人になること (3) 榎本栄次

「手伝ったのだ！」

子どもはいろいろなことをする。そこにある意味を見抜くことが求められる。私の掃除する姿をじっと見ていた生徒たちだが、掃除を終えて授業開始まで20分はかけた。さあ授業を始めようとするとき一番前に座っていたNが「そこにもある」と落ちているごみを指さした。

教師に掃除をさせてじっと見ている。自分たちのゴミだ。教卓に山盛りにして教師がかたづけられるのをじっと見ている。「そこにある」とはなんと情けない言葉だ。キレルのはこの時だった。ところがどこかから、声が聞こえてきた。「待て、彼は手伝っているのだ」はっと気が付いた。不器用なNの精一杯の手伝いであったのだろう。「ありがとう」。これは私から出た言葉ではない。そうだ、神様の声に助けられた。生徒たちはしーんとした。「さあ授業を始めろ」

この日は、前回できなかったマルティン・ルーサー・キング牧師の「汝の敵を愛せよ」の話をした。キング牧師は、モントリオールのバスボイコット運動の指導者である。1955年、一人の黒人夫人がバス席を白人に譲らなかったことから起きた事件である。白人席と黒人席に分かれて座ることになっていた。その日は職場で疲れた黒人夫人が黒人席に座っていた。この日は、白人が多く満席になったので、運転手が白人に席を譲るように命じた。その夫人は従わなかったので、運転手は彼女を引きずり出した。その後警察が彼女を逮捕した。この出来事に抗議したのがバスボイコット運動であり、キング牧師はそれの指導者であった。これは広く全米に広がり、黒人差別をなくする大運動になった。キング牧師は終始非暴力と「汝の敵を愛せよ」と説いた。しかし後にキング牧師は凶弾に倒れることになる。

これまでの授業でこんなに真剣に聞いてくれたことはなかった。気分を良くして終わりの礼をすると、前に座って

いたNが

「その聖書くれ」と言う。

彼らの持っているのは新約聖書であり、私の持っている分厚い旧新約聖書が欲しいのだと言う。

「よし、やるぞ。サインしてやる」

いい気分で授業を終えることができた。

そんな次の日曜日のことである。私が牧師をしている小さな教会の礼拝にNは仲間3人と一緒にやって来た。10人そこそこの礼拝のところへ、短パンを尻まで下げてパンツを半分見えるような恰好でVサインなどしながら入ってきた。礼拝が終ると、うどんを2杯ずつ食べて帰っていった。次の日曜日も来て、午後には他の教会との対抗ソフトボール会にも参加し、大活躍で女性の人気を独り占めにしていた。

次の礼拝にもやってきた、私は得意になっていた。「失われたもの」(ルカ 10:10)という説教をした。罪人ザアカイがイエスに出会って悔い改めた話である。それは良かったのだが、それに付け加えた話がよくなかった。「ここにいるN君は学校で、問題を起こして大変でした。でもこうして悔い改めて礼拝に来ているのです」。

これはこちら側の気持ちだった。彼の方はこの話で傷ついたということに気づかなかった。彼らはうどんも食べずに「俺はザアカイではない！」と言って帰っていった。それでも分からず、何か用でもあったのだろうか、ぐらいに思っていた。夕方、学校の生活指導の先生から電話がかかった。

「Nは、先生の教会の帰りに近くの公園でシンナー吸っていて、警察に捕まりました。次に何か問題を起こすと退学と決まっているので、これで終わりです。Nのような子はダメなんですよ」。最初からそうなることは分かっていた、安っぽい期待は的外れですよ、と言わんばかりである。

つづく

≡ ことば ≡

敵を愛し、自分を迫害する者のために祈れ

小久保 正

日本とアメリカは、北朝鮮がアメリカ本土までも届く大陸間弾道ミサイルの開発に成功した、と言って大騒ぎをしている。日本の首相とアメリカ大統領は、長時間に亘って協議し、北朝鮮に対する国際的制裁措置を強化しなければならない点で一致したと言う。

日本やアメリカの世論の大勢は、北朝鮮は道理の通らない粗暴な国だから、その好戦的試みを、力づくで抑え込まなければならないと主張する。しかし、その結果生じるのは、より危険な軍事的対立だけである。これまでの北朝鮮の軍備拡張は、アメリカの北朝鮮に対する制裁措置の拡大に対応してなされてきた。経済的に豊かでない北朝鮮が、民事に優先して軍備拡張に注力しなければならなかったのは、アメリカの脅威に対抗するためである。日本は、アメリカの良き友人として、アメリカと一緒に制裁を叫ぶのではなく、友好政策に転じるようアメリカを説得すべきである。その点で、中国とロシアが、日米の制裁強化政策に同調しないのは、賢明である。さらに注目すべきは、北朝鮮の脅威を最も敏感に感じている筈の韓国の人達が、制裁ではなく、友好政策を優先する人を大統領に選んだことである。

力により、他を従わせようとする試みは、対立をエスカレートさせ、人類が核兵器を手にしてしまった現代においては、ついには敵も味方も全滅させることになる。今日、平和を願うなら、敵一味方関係を消滅させるしかない。自分は正しく、相手が間違っているのだから、相手の間違いを正さなければならない、と言っている限り、和解し合う日は訪れない。

今あらためて、帰るべきは、イエスの山上の説教の、冒頭に掲げた言葉である。自分を迫害する者のために祈る時、敵一味方関係は消滅する。イエスは、上の言葉に続けて言う「天の父なる神は、悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」と。「太陽を昇らせ、雨を降らせる」とは、私達が、悪人で、正しくないと思っている人たちをも、天の父なる神様は大切に養われる、と言うのである。

これは、悪に無抵抗の消極的平和主義を越えて、敵を味方とする積極的平和主義である。

おたより

お茶をいただく

閑セミの茶室で初めてお茶をいただいたのは、庭の樹木から新緑が降り注ぐような初夏の日であった。

茶室に座るとまるで茶室もろとも緑に包まれているようで、シーンと心が静まっていくのを覚えた。本格的な茶室でいただく季節の和菓子とお抹茶は何年ぶりのことだろう・・・などと思いながら贅沢な時間を味わった。

あれから聖書の学びと共に、月に一度の至福の時を過ごしている。秋は紅葉、冬は雪、そして春になれば池の鯉が姿を見せて心を和ませてくれる。まさに四季折々の風景に包まれながらの一服。

堅苦しいお作法もなく、脚の悪い人には椅子が用意されている。

そんな手軽さも嬉しく私の大切なひとこまとなっている。

残雪に映ゆる万両庭の隅

茶室の庭に佇んで詠んだ一句。今年は冬が足早に来るのだろうか。

年々月日の流れの速さに戸惑っている。

佐々木公子

投稿

京都俳句きらら会

- ・名月や来年こそは妻と観る 拘置所 T
- ・秋日受け障子を揺らす池鏡 榎本虚舟
- ・金木犀星の花びら苔に散り 小久保枯骨
- ・朝もやの深山に浮かぶそばの花 松本茶香

関西セミナーハウス活動センターへの賛助・寄付金

2017.10.1-31 順不同・敬称略 (もみじまつりは別途報告)

土井健司、和田野勢津子、東千代、金山顕子、南和子、シュベネマンクラウス、山本良昭、安野優美、君村千代子、佐々木絃児、廣瀬芳之、藤本和子、金子博・町子、上田圭子、榎本栄次、君村昌、脇坂照世、藤田敦子、黒井久代、林榮子、春名康範、八杉恵

ありがとうございました。

関西セミナーハウスの四季だより

黄葉と紅葉

朝晩の気温が一気に下がり、セミナーハウスの木々も急に色づき始めました。白川通りの銀杏はまだ青々としていますが、セミナーハウスは玄関先のドウダンツツジも葉の先端が赤みを帯び、この便りが皆さんに届くころにはセミナーハウスはあふれんばかりの紅葉の季節になっているのではないのでしょうか。

「黄葉(もみじ)の、にほひは繁(しげ)し、しかれども、妻(つま)梨(なし)の木(き)を、手折(たおり)かざさむ」(万葉集:作者不明)

(もみじの葉が綺麗に茂っているけれど、妻を失った私はこの枝をおって頭に飾るのです。)

万葉集にもみじといえば黄色の葉を指し、黄葉をもみじと読むそうです。紅色より黄色を美しいと考えていたという説があります。美しいけれどどこか物悲しい秋の風景は、美しさをほめる溜息と幻想の混じりあう不思議な空間となるのです。能舞台の東側の小道は竹藪をバックにした紅葉で、山の香りと共にまさに幻想的な世界です。まもなく訪れる冬を前に、当館へぜひお出かけください。

関西セミナーハウス館長 久保田展史

発行所 公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー 関西セミナーハウス活動センター

発行人 所長 榎本栄次 住所 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

電話 075-711-2117 E-mail: office@academy-kansai.org